

【学校教育目標】

心豊かに 自ら考え行動できる児童の育成

めざす児童像 気づき 考え 行動しよう

～かしこく・やさしく・元気よく～

【本校の課題】

○男女とも、上体おこしや反復横とびや 20m シャトルランの値が低く、県・全国平均を下回っている。

○自分から進んで体を動かそうとする児童とそうでない児童に大きく2極化されている。

○全学年を通して、運動習慣が身につけていない児童が多く、運動に対する積極性が低い。

【現状】

朝から運動場に出て元気よく遊ぶ姿や、休み時間にも積極的に外へ出て行く様子が多く見られる。しかし、その一方で教室に多く残っている児童もいて、運動に対する意識の二極化が進んでいると感じられる。

授業に対しては意欲的に取り組み、体育の時間を楽しみにしている児童が多い。年間指導計画の工夫により、中学年・高学年の系統性が図られてきた。ルールへの工夫により、どの児童も積極的に運動に取り組むようになり、運動従事時間が増えてきている。

また、4年前より行っている体力づくりの成果が新体力テストの成績向上に顕著に現れており、合計点では、すべての学年で県平均を上回った。今年度も運営方法を改善しながら継続して行っていきたい。

【取組み】



年間計画の工夫

運動機会を増やすために、授業での運動量を確保する。そのために、体育で使用する環境・場を確保し、十分な運動ができる時間を保障した年間計画を実施している。

既存のルールで行うのではなく、経験の有無に関係なく楽しめるルールを考え、運動への積極性を高めたい。



外遊びのルールの工夫

コロナ禍でも、子どもたちが安心して外遊びができるように、学年で使える時間を業間休みと昼休み、曜日に分けている。体育の授業での感染症対策を全職員が共通理解できるように、文書を配布した。

外遊び中の1年生と6年生の接触を防ぐため、体育委員会と話し合い、運動場を3つに分けている。



体力づくりの工夫

8の字大縄3分間チャレンジを各学級でチームを作り、全校生で体力づくりの時間に取り組む。また、体育委員会主催で、遊具を活用した体力づくり「みなみっ子SASUKE」と「ナワトビチャレンジ」を秋から冬に行う。

多様な動きを経験することによって運動に対する感覚を身につけたい。

【目標】

○体育の授業の運動量を増やし、体育が好きで運動に積極的に取り組む児童を育成する。

○ルールや場を工夫し、苦手な種目でも楽しみながら運動に参加する児童を育成する。

○新体力テストの合計記録のさらなるレベルアップを目指す。